

# 平成30年度 こども園評価書

小鹿こども園

平成30年度「園評価」の実施内容を下記の通り報告します

- 1 教育・保育理念  
生きる力の基礎を身につけ 心身共に健やかで心豊かな子どもを育む
- 2 教育・保育目標
  - ・やさしい心
  - ・元気なからだ
  - ・認め合う
  - ・いろいろなことにチャレンジ
  - ・最後までがんばる
- 3 今年度の重点目標
  - ・いろいろなことにチャレンジしようとする子
- 4 研究テーマ
  - ・園庭環境の見直しから、ワクワク！ドキドキ！が生まれるこども園づくり
- 5 評価項目の達成及び取り組み状況

◎この集計結果は、平成30年度在籍の職員14名（常勤的保育教諭）を対象に実施したアンケートをまとめた本園の自己評価です。  
この結果を踏まえ、今後も本園では保育の質の向上、職員の専門性の向上を目指し取り組んでまいります。

評価の観点	評価項目	評価	今年度の取り組み状況
教育・保育課程 全体的な計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項	教育・保育課程、子どもの実態、などをもとに考えて作成している	B	教育・保育課程、園の状況や子どもの姿をふまえて計画を立てている。遊びを通して様々な経験が出来るように努めている。
	指導計画の評価・検討を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している	B	長期的な年間計画、月次計画によって見直しを持ち、短期的な計画は週案としている。子どもたちの生活の連続性と姿を考慮した計画の作成・展開を学んでいる。計画の見直しを行い、自分の保育を振り返ることができた。しかし職員全体で検討を行う事が出来なかった。
	一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録がある	B	日誌、経過記録、要録などに一人ひとりの発達状況や様子を記入している。記録することで保育教諭自身の保育省察の機会となっている。
子どもの健康支援	登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人一人の発育・発達状況、健康状況に応じて実施している	B	毎日、保護者と健康状態を確認し合い、検温のチェックや健康観察を行っている。毎月の身体測定や健診の結果も知らせている。また毎月衛生研修を行い、健康に関する知識や対応の仕方などを学んでいる。

安全管理	事故や災害に適応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	避難訓練は、防災（地震・火災）・不審者対策などの想定や避難場所を変えながら月1回実施している。マニュアルはあるが全職員が周知出来ていない。マニュアルの周知や理解をするための取り組みが必要である。
	事故防止の為の具体的な取り組みを行っている	B	保護者の送迎時間以外は玄関の施錠をしている。園庭に2台、0歳保育室に1台のカメラを設置し安全対策に努めている。危険な場面が見られた時は声を掛け、防止対策をしている。ヒヤリハット検討会や怪我をしない身体作り（運動遊び）をしている
	調理場、水回りなどの衛生管理が適切に実施されている	B	衛生面に配慮しながら掃除をしている。
食育の推進	食事を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	B	年齢別に食育計画を作成して計画的に意識化、実践できるようにした。楽しい雰囲気ですること出来るような声掛け、野菜の栽培や収穫、食育教室、クッキングなどの活動を行った。
	食物アレルギーは個別に配慮して、食事を提供している	A	毎月の献立を保護者と担任と調理者で確認し合い、食事の提供をしている。誤飲・誤食がないよう個別のプレートやトレーで分けるなどの工夫がされ、調理員同士、調理員と保育教諭とが連携を密に取りしっかりと確認している。宗教による除去対応も行っている。
子育て支援 ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等	一人一人の保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの送迎時に子どもの様子について情報交換している</li> <li>・連絡ノートやクラスだよりなどにより、きめ細やかに情報発信や情報交換を実施している</li> <li>・保護者の意向を踏まえて個別面談を実施している</li> </ul>
	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	B	保育参加会や懇談会で子どもの発達について、保護者と共通理解を得る機会を設けた。気になることがあれば個別に伝えたり、保護者からの相談や悩みにも対応するようにした。
	保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供している	A	「園だより」や「クラスだより」などを定期的に発行している。玄関掲示を利用して子どもの様子を発信した。乳児クラスは写真を使つての情報提供があまり出来なかった。発信方法を検討したい
	保護者の保育参加を進めるための工夫をしている	B	あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。様々な行事を計画し、保育参加や保育参観の機会を必要に応じて作っている。保護者と協力して子育てが出来よう努めている。
	一時保育やおしゃべりサロンなどを通し、地域で子育てしている保護者を対象とする子育て支援の取り組みを行っている	B	日常的に一時預かりができる体制をとっているが、時期的に受け入れができないときがある。園庭開放、おしゃべりサロン、一時保育などの取り組みを行い、地域の保護者を支援しながら交流が持てるようにした。挨拶や声掛けをするように心掛けている。
	子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めている	B	小鹿二丁目町内会との交流があり、お年寄りとの触れ合いが楽しめるS型サービスや夏祭りに和太鼓演奏を披露したり地域の行事に参加できた。高齢者施設小鹿苑やなでしこ保育園との交流を楽しんでいる。しかしクラスによっては地域との交流があまり持てないクラスがあった。

教育・保育内容	子ども一人一人の良さを認めて受容しようと努めている	A	一人ひとりの良さを認め、安心感と信頼感を持って過ごせるように子どもの情緒の安定を大事にして接している。
	子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	環境整備に努めたが子ども達にとって魅力ある室内環境にするための工夫や改善がもっと必要だと感じる。
	様々な表現活動が体験できるように配慮されている	B	表現することの楽しさを味わえるよう様々な遊びを楽しめるよう配慮した。しかし表現活動を増やしていきたい思いもある。
	基本的な生活習慣や生理現象に関して、一人一人の子どもの状況に応じて対応している	B	一人一人の自主性を尊重し、発達や状況に合わせ、家庭と連携しながら対応している 安心して休息できるよう配慮している トイレは一斉の時間帯の他、一人一人のリズムに合わせて行えるようにしている
	気になる子、特別な支援が必要な子どもの保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している	B	職員間で情報を共有したり、ケース検討会で保育の内容や方法について話し合っているが、保育環境は整備されていない。
職員の資質向上	教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる	B	保育内容や環境構成について園内研修を行った。多くの職員が参加できるような仕組みにしていきたい。
	各研究会や研究会に積極的に参加して、新しい情報や知識を取り入れる	B	積極的に研修に参加するよう心掛けた。研修で学んだことを園でも生かし、保育の向上や保育者のスキルアップに努めた。

評価基準

A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：ほとんどできていない

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
認定こども園として	保護者の就労時間や就労体系の多様化に伴い、子どもたちが置かれている環境も多様化しているが、子どもたちが安心して過ごせる環境を第一に考え、様々な保護者ニーズにも答えて行きたい。
資質向上について	教育・保育内容の課題や改善点を職員で話し合い、環境構成を工夫したり、子ども達に様々な経験が出来るよう遊びの計画をしてきたことは、職員の資質向上につながっていると見える。又保育を振り返る中で、保育者が充実感を味わったり、より良い保育を実践していきたいという意識が高まった。 園内研修は、職員の課題に合わせ取り組んではいるものの日々の保育と研修等の学びを上手く組み込めるような勤務体制を目指したい。
園全体での取り組みの意識	様々な職種で成り立つこども園の中で、お互いが尊重し合協力しながらこども園として、どういった支援をしていくのかをより話し合い、認め合える職員集団にしていく自己評価から、担当する保育等の業務に関しては意欲を持っているが、安全管理ではマニュアルが周知できていない、食育の推進では楽しく食べるという面での工夫が足りなかった、研修参加が少なかったなどが見られ、職員により意識に差がある。補うためのも、園内研修等の工夫をしていきたい。